

[A年] 公現後第6主日(2021年2月14日)**【旧約聖書日課】イザヤ書 30章8～17節**

- ⁸ 今、行って、このことを彼らの前で
板に書き、書に記せ。
それを後の日のため、永遠の証しとせよ。
- ⁹ まことに、彼らは反逆の民であり
偽りの子ら、主の教えを聞こうとしない子らだ。
¹⁰ 彼らは先見者に向かって、「見るな」と言い
預言者に向かって
「真実を我々に預言するな。
滑らかな言葉を語り、惑わすことを預言せよ。」
- ¹¹ 道から離れ、行くべき道をそれ
我々の前でイスラエルの聖なる方について
語ることをやめよ」と言う。
- ¹² それゆえ
イスラエルの聖なる方はこう言われる。
「お前たちは、この言葉を拒み
抑圧と不正に頼り、それを支えとしているゆえ
¹³ この罪は、お前たちにとって
高い城壁に破れが生じ、崩れ落ちるようなものだ。
崩壊は突然、そして瞬間に臨む。
¹⁴ その崩壊の様は陶器師の壺が砕けるようだ。
容赦なく粉碎され
暖炉から火を取り
水槽から水をすくう破片も残らないようだ。」
- ¹⁵ まことに、イスラエルの聖なる方
わが主なる神は、こう言われた。
「お前たちは、立ち帰って
静かにしているならば救われる。
安らかに信頼していることにこそ力がある」と。
しかし、お前たちはそれを望まなかった。
- ¹⁶ お前たちは言った。
「そうしてはいられない、馬に乗って逃げよう」と。
それゆえ、お前たちは逃げなければならない。
また「速い馬に乗ろう」と言ったゆえに
あなたたちを追う者は速いであろう。
- ¹⁷ 一人の威嚇によって、千人はもろともに逃れ
五人の威嚇によって、お前たちは逃れる。
残る者があっても、山頂の旗竿のように
丘の上の旗のようになる。

【使徒書日課】使徒言行録 12章1～17節

- ¹ そのころ、ヘロデ王は教会のある人々に迫害の手を
伸ばし、² ヨハネの兄弟ヤコブを剣で殺した。³ そして、
それがユダヤ人に喜ばれるのを見て、更にペトロをも捕
らえようとした。それは、除酵祭の時期であった。⁴ ヘ
ロデはペトロを捕らえて牢に入れ、四人一組の兵士四組
に引き渡して監視させた。逾越祭の後で民衆の前に引き
出すつもりであった。⁵ こうして、ペトロは牢に入れら
れていた。教会では彼のために熱心な祈りが神にささげ
られていた。
⁶ ヘロデがペトロを引き出そうとしていた日の前夜、
ペトロは二本の鎖でつながれ、二人の兵士の間で眠って
いた。番兵たちは戸口で牢を見張っていた。⁷ すると、
主の天使がそばに立ち、光が牢の中を照らした。天使は

ペトロのわき腹をつついて起こし、「急いで起き上がり
なさい」と言った。すると、鎖が彼の手から外れ落ちた。
⁸ 天使が、「帯を締め、履物を履きなさい」と言ったの
で、ペトロはそのとおりにした。また天使は、「上着を
着て、ついて来なさい」と言った。⁹ それで、ペトロは
外に出てついて行ったが、天使のしていることが現実の
こととは思われなかった。幻を見ているのだと思った。
¹⁰ 第一、第二の衛兵所を過ぎ、町に通じる鉄の門の所ま
で来ると、門がひとりでに開いたので、そこを出て、あ
る通りを進んで行くと、急に天使は離れ去った。¹¹ ペト
ロは我に返って言った。「今、初めて本当のことが分か
った。主が天使を遣わして、ヘロデの手から、またユダ
ヤ民衆のあらゆるくろみから、わたしを救い出してく
ださったのだ。」¹² こう分かったペトロは、マルコと呼
ばれていたヨハネの母マリアの家に行った。そこには、
大勢の人が集まって祈っていた。¹³ 門の戸をたたくと、
ロデという女中が取り次ぎに出て来た。¹⁴ ペトロの声だ
と分かった、喜びのあまり門を開けもしないで家に駆け
込み、ペトロが門の前に立っていると告げた。¹⁵ 人々は、
「あなたは気が変になっているのだ」と言ったが、ロデ
は、本当だと言い張った。彼らは、「それはペトロを守
る天使だろう」と言い出した。¹⁶ しかし、ペトロは戸を
たたき続けた。彼らが開けてみると、そこにペトロがい
たので非常に驚いた。¹⁷ ペトロは手で制して彼らを静か
にさせ、主が牢から連れ出してくださった次第を説明し、
「このことをヤコブと兄弟たちに伝えなさい」と言った。
そして、そこを出てほかの所へ行った。

【福音書日課】マタイによる福音書 14章22～36節

²² それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、
向こう岸へ先に行かせ、その間に群衆を解散させられた。
²³ 群衆を解散させてから、祈るためにひとり山にお登り
になった。夕方になっても、ただひとりそこにおられた。
²⁴ ところが、舟は既に陸から何スタディオンか離れてお
り、逆風のために波に悩まされていた。²⁵ 夜が明けるこ
ろ、イエスは湖の上を歩いて弟子たちのところに行かれ
た。²⁶ 弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるの
を見て、「幽霊だ」と言っておびえ、恐怖のあまり叫び声
をあげた。²⁷ イエスはすぐ彼らに話しかけられた。「安
心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」²⁸ すると、
ペトロが答えた。「主よ、あなたでしたら、わたしに命
令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。」
²⁹ イエスが「来なさい」と言われたので、ペトロは舟か
ら降りて水の上を歩き、イエスの方へ進んだ。³⁰ しかし、
強い風に気がついて怖くなり、沈みかけたので、「主よ、
助けてください」と叫んだ。³¹ イエスはすぐに手を伸ば
して捕まえ、「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」と言
われた。³² そして、二人が舟に乗り込むと、風は静まっ
た。³³ 舟の中にいた人たちは、「本当に、あなたは神の
子です」と言ってイエスを拝んだ。
³⁴ こうして、一行は湖を渡り、ゲネサレトという土地
に着いた。³⁵ 土地の人々は、イエスだと知って、付近に
くまなく触れ回った。それで、人々は病人を皆イエスの
ところに連れて来て、³⁶ その服のすそにでも触れさせて
ほしいと願った。触れた者は皆いやされた。

「聖書協会共同訳」(2018年版)読み比べ

イザヤ書 30章8～17節

- 8 今、行って、このことを彼らの前で
板に書き、巻物に記せ。
後の日のために、永遠の証しとせよ。
- 9 彼らは反逆の民、偽りの子ら
主の教えを聞こうとしない子らなのだ。
- 10 彼らは先見者たちには「見るな」と言い
予見者たちには
「我々に正しいことを予見するな。
我々に甘言を語り、欺瞞を予見せよ。」
- 11 道から離れ、進路から外れ
イスラエルの聖なる方を
我々の前から取り除け」と言う。
- 12 それゆえ、イスラエルの聖なる方はこう言われる。
「あなたがたはこの言葉を拒み
抑圧と不正を頼み、それを支えとしているがゆえに
- 13 その罪は、あなたがたにとって
高い城壁で膨らみ
崩れ落ちようとする破れ目のようだ。
その崩壊は、突然、瞬間に来る。
- 14 その崩壊は、陶工の壺が壊れるようなものだ。
容赦なく砕かれ
その破片の中には
炉から火を取り、水溜めから水を汲むための
かけらさえ見いだせない。」
- 15 主なる神、イスラエルの聖なる方はこう言われる。
「立ち帰って落ち着いていれば救われる。
静かにして信頼していることにこそ
あなたがたの力がある。」
しかし、あなたがたはそれを望まなかった。
- 16 あなたがたは言った。
「いや、馬に乗って逃げよう」と。
それなら、逃げてみればよい。
「速い馬に乗ろう。」
それなら、追っ手はなお速い。
- 17 一人の威嚇によって千人が逃げ
五人の威嚇によってあなたがたは逃げる。
山の頂の旗竿のように
丘の上の旗のように
僅かな者しか残らない。

使徒言行録 12章1～17節

1その頃、ヘロデ王は教会のある人々に迫害の手を伸ばし、²ヨハネの兄弟ヤコブを剣で殺した。³そして、それがユダヤ人に喜ばれるのを見て、さらにペトロをも捕らえようとした。それは、除酵祭の時期であった。⁴ヘロデはペトロを捕らえて牢に入れ、四人一組の兵士四組に引き渡して監視させた。過越祭の後で民衆の前に引き出すつもりであった。⁵こうして、ペトロは牢に入れられていた。教会では彼のために熱心な祈りが神に献げられていた。

6ヘロデがペトロを引き出そうとしていた日の前夜、ペトロは二本の鎖でつながれ、二人の兵士の間で眠っていた。番兵たちは戸口で牢を見張っていた。⁷すると、主の天使がそばに立ち、光が牢の中を照らした。天使は

ペトロのわき腹をつついて起こし、「急いで起き上がらなさい」と言った。すると、鎖が彼の手から外れ落ちた。⁸天使が、「帯を締め、履物を履きなさい」と言ったので、ペトロはそのとおりにした。また天使は、「上着を着て、付いて来なさい」と言った。⁹それで、ペトロは外に出て付いて行ったが、天使のしていることが現実のことだとは分からず、幻を見ているように思えた。¹⁰第一、第二の衛兵所を過ぎ、町に通じる鉄の門の所まで来ると、門がひとりでに開いたので、外に出て、通りを進んで行くと、突然、天使は離れ去った。¹¹その時、ペトロは我に返って言った。「今、初めて本当のことが分かった。主が天使を遣わして、ヘロデの手から、またユダヤ民衆のあらゆるもくろみから、私を救い出してくださいましたのだ。」

¹²そうと分かるとペトロは、マルコと呼ばれていたヨハネの母マリアの家に行った。そこには、大勢の人が集まって祈っていた。¹³彼が門の戸を叩くと、ロデと言う召使の女が取り次ぎに出て来た。¹⁴ペトロの声だと分かると、喜びのあまり、門を開けもしないで家に駆け込み、ペトロが門の前に立っていると知らせた。¹⁵人々は、「あなたは気が変になっているのだ」と言ったが、ロデは、本当だと言い張った。彼らは、「それはペトロを守る天使だろう」と言った。¹⁶しかし、ペトロは戸を叩き続けた。彼らが開けてみると、ペトロがいたので驚いた。¹⁷ペトロは手で制して彼らを静かにさせ、主が牢から連れ出してくださった次第を説明し、「このことをヤコブときょうだいたちに伝えなさい」と言った。そして、そこを出てほかの所へ行った。

マタイによる福音書 14章22～36節

²²それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、向こう岸へ先に行かせ、その間に群衆を解散させられた。²³群衆を解散させてから、祈るために独り山に登られた。夕方になっても、ただ一人そこにおられた。²⁴ところが、舟はすでに陸から何スタディオンか離れており、逆風のために波に悩まされていた。²⁵夜が明けると、イエスは湖の上を歩いて弟子たちのところに行かれた。²⁶弟子たちは、イエスが湖の上を歩いておられるのを見て、「幽霊だ」と言っておびえ、恐怖のあまり叫び声を上げた。²⁷イエスはすぐに彼らに声をかけ、「安心しなさい。私だ。恐れることはない」と言われた。²⁸すると、ペトロが答えた。「主よ、あなたでしたら、私に命令して、水の上を歩いて御もとに行かせてください。」²⁹イエスが「来なさい」と言われたので、ペトロは舟から降りて水の上を歩き、イエスの方へ進んだ。³⁰しかし、風を見て怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。³¹イエスはすぐに手を伸ばして捕まえ、「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」と言われた。³²そして、二人が舟に乗り込むと、風は静まった。³³舟の中にいた人たちは、「まことに、あなたは神の子です」と言ってイエスを拝んだ。

³⁴こうして、一行は湖を渡り、ゲネサレトの地に着いた。³⁵土地の人々は、イエスだと知って、付近にくまなく触れ回った。それで、人々は病人を皆イエスのところに連れて来て、³⁶せめて衣の裾にでも触れさせてほしいと願った。触れた者は皆、癒された。

黙想のためのノート**次主日聖書日課について**

・2月14日「公現後第6主日(降誕節第8主日)」の日課主題は「奇跡を行うキリスト」。「公現後(降誕節)」の期節は、「受難節」に入る直前まで続くが、主日聖書日課表では、この期節の長短に関わらず最後の三主日に決まった日課箇所を設定している。今年は、「公現後第6主日(降誕節第8主日)」がこの期節最後の主日で、この週の水曜日「灰の水曜日」から「受難節(レント)」に入る。

・主イエスの公生涯に関する伝承のうち、「受難物語」以外で四福音書に共通に伝えられている逸話は、「湖の出来事」と「パンの出来事(五千人の給食)」である。いずれの逸話も、二つのパターンで伝えられており、同一の出来事を伝えるものか、別の類似した出来事をここに伝えるものか、定かではない。いずれにしても、これらの逸話は「奇跡伝承」であり、そのような伝承が初代教会で広く共有されていたことを示すものであるわけで、多くの人に「奇跡」と認知される事実があったことは確かであると言える。

・弟子たちの初代教会の逸話を伝える「使徒言行録」には、主イエス同様の奇跡を行う弟子たち(使徒たち)の姿が繰り返し描かれている。「使徒言行録」は、「ルカ福音書」の続巻として、主イエスの公生涯の出来事を再現するような弟子たちの活動に関連する逸話によって構成されており、弟子たちの奇跡伝承は重要な要素となっている。

旧約日課(イザヤ 30 章より)

・「イザヤ書」の総論は、1月27日「聖書と祈りの会」資料(1月31日主日聖書日課の黙想)を参照。今回の日課箇所は、同じ章の前段にあたる。

・日課箇所は、「第一イザヤ」の中に位置づけられる。「第一イザヤ」のうち1~35章は、1:1で示されている「ユダの王、ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの治世」の時代に沿って「預言者イザヤ」の預言とその活動が構成されていると見ることができる。36章以下は、「王国年代記」的資料に基づく「ヒゼキヤ王の物語」で、「列王記」下18~20章と同じ文書である。そこで、「イザヤ書」9~35章は、すでに「ヒゼキヤ王の時代」を背景にしているとみなす材料があるが、36章以下で物語られているヒゼキヤ王の時代の出来事を参照しながら、各箇所背景となっている時期を推測する。

・日課箇所は、「サマリアの陥落」(28章)、「エルサレム攻城戦」(29章)に続いて、「エジプトとの同盟」(30章)を推察させる記述箇所である。ヒゼキヤ王は、前王時代からのアッシリアへの朝貢服従を当初は保っていたが、アッシリアの政治情勢の変化に乗じてエジプトと同盟を組み、アッシリアに抵抗しようとした。ところが、アッシリア王センナケリブが遠征しエルサレムを包囲し、陥落寸前まで追い込まれ、預言者イザヤに助言を求めた。その際のイザヤの預言は、37:22以

下にも伝えられるように、おそらく王国公式文書に保存されることになったであろう。

・日課箇所は、預言者の働きが正当に評価されていない現実があることを指摘し、預言者を通して主の告げる言葉を聞かない者らがどのような行く末を迎えるのかを、皮肉を込めて警告している。イザヤの預言の基本的な神学として、「主の言葉は決してむなしく終わらず、必ず実現する」という思想がある。ここでは、そのような「発せられた言葉」の現実化(「言霊」的発想)を、主の言葉を聞かず預言者を拒む者たちの語る言葉に当てはめて、彼らが自分自身の発した言葉に縛られるように身の破滅を迎えるのだと描いている。

使徒書日課(使徒 12 章より)

・「使徒言行録」は、「ルカ福音書」の続巻として編集編纂された「初代教会史」であるが、厳密な意味で史実の記録であるよりは、「ルカ福音書」で描かれる主イエスの公生涯の敷衍として初代教会の弟子たちの歩みを描くことを目的として編集された文書であり、「歴史物語」というべきものである。「ルカ福音書」が、主イエスの公生涯の働きの中でも「宣教」に強調点を置いて描いていることに呼応して、「使徒言行録」の「初代教会」の弟子たちは、主の昇天後、まずエルサレムから、続いてユダヤ、サマリア、ガリラヤで、そして地中海世界全体へと、宣教領域を拡大していく。その担い手も、当初は、ペトロら十二使徒(十二弟子)を中心に描かれるが、すぐに新しい働き人が選び出されるようになり、はじめは教会迫害者として登場するサウロ=パウロのような人物さえも宣教の中心的担い手として物語の主要部を占めるように描かれる。

・日課箇所は、「ヘロデ王による教会迫害」という出来事として描かれる。ここに登場する「ヘロデ」は、「ヘロデ大王」の4人の後継者(息子たち)の一人で、「ヘロデ・アグリッパ」と呼ばれる人物である。ヘロデ大王の息子たちは、「王」を名乗ることが許されずに「領主」や「総督」として分割された領域の統治を継承したが、最後に残ったのが、この「ヘロデ・アグリッパ」で、他の兄弟らが統治していた領域まで自身の統治下に置くことに成功している。しかし、彼の死後、息子が未成年であったためただちに後継の統治を許されずに時が過ぎ、ユダヤ戦争(66~70年)に至って、ヘロデ家の統治は終焉することになっている。なお、主イエスの公生涯で描かれ、洗礼者ヨハネを処刑したのは、「アグリッパ」の異母兄「ヘロデ・アンティパス」である。日課箇所の「ヘロデ・アグリッパ」は、教会迫害者として描かれるが、同時代のユダヤ史を伝えるヨセフ著『ユダヤ古代史』では、残虐性のない温厚謙虚な統治者として描かれている。

・日課箇所の描くペトロの投獄および脱獄は、「ルカ福音書」に予型となる出来事が見当たらないが、主イエスの「終末の教え」で予告されている事柄(ルカ21:12以下)の実現として描かれているのであろう。

福音書日課(マタイ 14 章より)

・日課箇所は、福音書が伝える二つの「湖の出来事」のうちの一つで、「湖上を歩く主イエス」の姿が描かれる。「マルコ福音書」および「ヨハネ福音書」が同じ逸話を「五千人の給食」の逸話とセットで伝えているが、「ルカ福音書」は「五千人の給食」の逸話を伝えながら、この「湖上を歩く主イエス」の逸話を伝えていない。

・日課箇所を、「マルコ福音書」および「ヨハネ福音書」の並行箇所と比較すると、「マタイ福音書」だけが、ペトロの湖上歩行という逸話を含めて伝えている。このペトロに関する伝承が、一般にペトロ自身の証言に基づく伝承という性格が強い「マルコ福音書」には含まれないことから、これは二次的なペトロ伝承である可能性が高い。つまり、ペトロ自身の証言に基づくのではなく、初代教会にとって「一番弟子」として象徴的な位置にあるペトロの逸話として描くことで、「弟子のあり方」を問う物語となるように編集されたと考えられる。同様のことは、16章に伝えられる「ペトロの信仰告白」伝承などにも見られる。

・「舟」は、初代教会においては「弟子たちの教会」を象徴するものとして理解されていたと推察される。そこで、「湖」を渡る「舟」には、主イエスが不在であったり、同乗していても眠っていたり、という状況が設定される。主イエスの復活・昇天後に聖霊降臨によって歩み始めた「弟子たちの教会」は、生前の主イエスを知っている弟子たちの集団でありながら、現実には主イエスが不在の集団として歩まねばならなかった。そのような「弟子たちの教会」が、どのように主イエスの臨在を信じるのか、ということが重要な信仰問題となっていたと考えられる。「弟子たちの教会」は、「湖上の舟」のように、主イエスが不在であるように見えながら、いつでも同じ地平を歩んでくださる主イエスと共にあるし、主イエスが眠っていらっしやるように見えながら、いつでもその地の「風や波」を支配する方として共在してくださっている。問題は、弟子たちがそのことを信頼できるかどうかという「信仰」の問題になるのである。

来週の誕生日 (2月14日～20日)**主日礼拝の讃美歌から**

・21-6 番「つくりぬしを賛美します」(= I 79「ほめたたえよ、つくりぬしを」)は、もともと 17 世紀のオランダ独立戦争の最中に愛唱された愛国歌であったものが米国の収穫感謝祭の歌として英訳され(「We gather together」)歌われてきた讃美歌だったが、歌詞が愛国的すぎるとの批判から、長老教会の信徒 J・コリーが新しい歌詞を創作し生まれた。

・21-60 番「どんなにちいさいことりでも」(□58 番)は、1966 年版『こどもさんびか』の増補版として 1983 年に出版された『こどもさんびか 2』のために作詞作曲

された讃美歌。作詞は幼児教育とその指導者育成に携わった菅千代。作曲は作曲家・広瀬量平。

・21-453 番「何ひとつ持たないで」、現代オランダの元カトリック司祭で独立教会「エクレジア」を主宰する H.オースターハウスの作詞したオランダ語歌詞。曲は、カトリック司祭 B.M.ハウベルスがこの歌詞のために作曲。

21-6「つくりぬしを賛美します」**Wilt heden nu treden voor God den Heere**

1. Wilt heden nu treden voor God, den Heere, / Hem boven al loven van harte zeer, / En maken groot zijns lieven namens eere, / Die daar nu onzen vijand slaat terneer.
2. Ter eeren ons Heeren wilt al uw dagen / Dit wonder bijzonder gedenken toch. / Maakt u, o mensch, voor God steeds wel te dragen, / Doet ieder recht en wacht u voor bedrog!
3. Bidt, waket en maket, dat g'in bekoring / En 't kwade met schade toch niet en valt. / Uw vroomheid brengt den vijand tot verstering, / Al waar' zijn rijk nog eens zoo sterk bewald!
(Nederlandsche Gedenckclanck, Haarlem, 1626)

English version by J.C.Cory

1. We praise Thee, O God, our Redeemer, Creator! / In grateful devotion our tribute we bring; / We lay it before Thee, we kneel and adore Thee; / We bless Thy holy name; glad praises we sing.
2. We worship Thee, God of our fathers; we bless Thee; / Through life's storm and tempest our Guide hast Thou been; / When perils o'ertake us, escape Thou wilt make us, / And with Thy help, O Lord, our battles we win.
3. With voices united our praises we offer; / To Thee, great Jehovah, glad anthems we raise. / Thy strong arm will guide us, our God is beside us, / To Thee, our great Redeemer, forever be praise.

(Evangelical Lutheran Hymnary #466)

21-453「何ひとつ持たないで」**Ik sta voor U**

1. Ik sta voor U in leegte en gemis, / vreemd is uw naam, onvindbaar zijn uw wegen. / Zijt Gij mijn God, sinds mensenheugenis, / dood is mijn lot, hebt Gij geen and're zegen? / Zijt Gij de God bij wie mijn toekomst is? / Heer, ik geloof, waarom staat Gij mij tegen?
2. Mijn dagen zijn door twijfel overmand, / ik ben gevangen in mijn onvermogen. / Hebt Gij mijn naam geschreven in uw hand, / zult Gij mij bergen in uw mededogen? / Mag ik nog levend wonen in uw land, / mag ik nog eenmaal zien met nieuwe ogen?
3. Spreek Gij het woord dat mij vertroosting geeft / dat mij bevrijdt en opneemt in uw vrede. / Open die wereld die geen einde heeft, / wil alle liefde aan uw zoon besteden. / Wees Gij vandaag mijn brood zowaar Gij leeft. / Gij zijt toch zelf de ziel van mijn gebeden.